



秋田屋



浄瑠璃早合点

價目表
價目表

此言ハ 浄瑠璃ハ監觸放人者夫名人也云云
 ○浄瑠璃音義傳 ○妻はは傳 ○間拍ふはは傳
 ○身と熱さる傳 ○若曲角の傳 ○座敷浄瑠璃の傳
 ○若古のは傳 ○出語の傳 ○章附の傳 ○中開合乃傳
 ○若進大舎は言の心得 ○素人ヨをまざる傳 ○序會順會事
 ○節附言配の傳 ○中音よて清る心得 ○若古屋は心得
 ○三味線乃傳 ○浄瑠璃入段乃傳 ○産字は心得
 右ハ外浄瑠璃と云ふ之常小なるを名付之を史名言ハ
 浄瑠璃と云ふ之ハ一見せられ可いなる所ハ一取言なり
 此ハ浄瑠璃ハカコウコウの中ハ此書ハ浄瑠璃ハ車ハ

新編熊坂説話卷之四

武江

感和亭鬼武 著



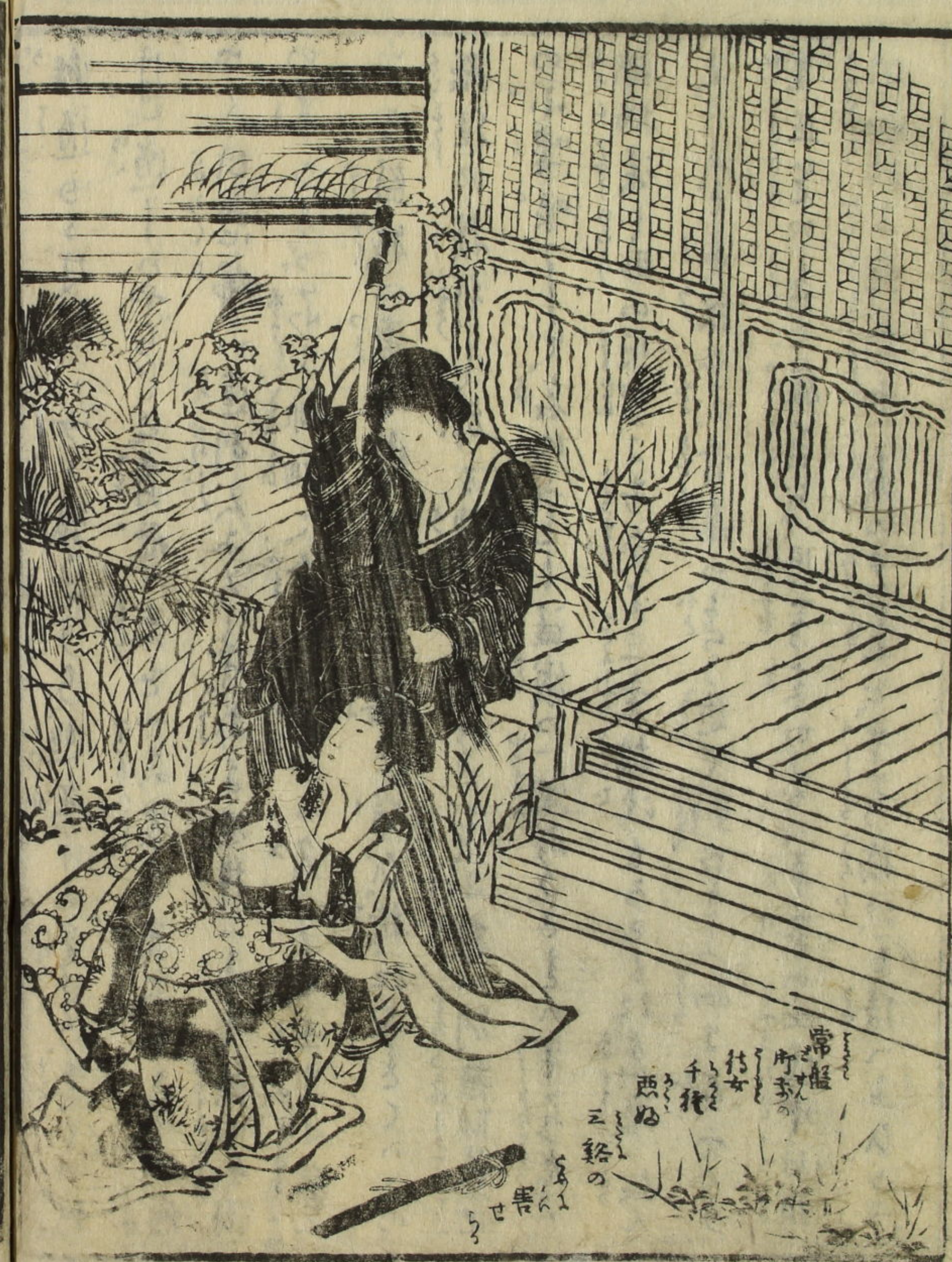
○壬生小猿妻三糸殺旅婦話
 係 牛若丸到青墓駅
 此ハ一と何とクハの處ハ名と青母ハ名ハ
 赤坂の里も若新自新ハ名ハ一ハ常盤の前ハ丸ハ
 子由ハ小猿ハ旅の室都ハ及ハ出ハ知ハ侍見千種
 柱ハ延連ハ名ハ旅の歩路ハ名ハ有ハ長ハ團青母
 原ハ一ハ名ハ日ハ西山ハ名ハ道ハ名ハ名ハ中ハ
 徑ハ名ハ名ハ類ハ名ハ積氣ハ名ハ名ハ名ハ侍見
 千種ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ名ハ

そり介抱は「お点もは公比よふい」と言ふ
僅うの路とおひまが。那女は寓女もとくべらんともるに
いたよりかづく其折りら四十余その女房ぶは路程に末裁で
二個の初静と家入の旅の女の二個づも一個ハ病又苦しむと見
かねて那者例へよ立より見まはるるも。旅方の病ふよませ
たまふ風情の侍ひ妻の拿合せる黒丸子こそまいらせんと傳言
後いよと身のカ州付如の人々ありねども情のあせ糸色と茶を
多ゆて侍女千種あがなゆしやとゆくと看まは那女それる路に
流あり指よ志ゆして拿たまふ其同ハ妻介抱せんと扶健しむ
妻が家の往道き青墓の里取まは將ひゆてやすらひせとべらん
情のこもる千種ハ欣悦常盤町と女小まらせあもとらん

とて初は女ハ脊と抱狗のありハ抱下介抱よとらうよに
保るちの細ッ黄金と延出する先と常盤の糸袴と押入て
眼ハ開き情とかけて急墮させ供ハ你ハ物なよとおせ小
女ハ声悲げ石えまらうどの旅人とゆりてせかせ情の
礼物えアさん香とあらば余も俱ふと繋し拿たる懐紐と振
放らて囚めりす折らう死来る侍女千種那女と捕て突のけ
手はさりのと想ひの外益成の類ひよふ女てこそあまらるるの
旅路とつゝ主人の供やハり汝等の子小あハんや町主人ハ
のらう初又のて産いませと常盤町糸と過堂へ押入痛七
建よ世日しく子疾又懐紐抜拿らるる退すば要目ハ
えせんとも様へたり那女可くと赤笑路費の金をにえんと

響のえ入と小鳥も同じ余惜くの金とせと懐妊逆よ
突つるを千種も流石武家五月分とかけて。疾風とけ互に
いど争ふうち堂の中を叫と叫ぶ常盤の声も千種は
撲きの強く足込じかとのきかきしたる弱文へ跟入肩
四五寸突込ま叫と膝ぐとけりやと尋かけて切つけし紀
こあせるを捕て押せ替拵んで土まより付殺せずが好目に
うへまよりのと不役やと胸のあちが刺通さま七頭八倒作
犯いて千種が急なむとんとりもあすなり仕海たりと
あ後とえまいし。強よりい洞の中。床をふきしと那女今一
骨打して呉んと一個笑して突ぬる扉のうらふ人も取し
這者不畜とぞ知け知と尋もども殺だふもえぬぬい

遊道わろずあいな女と殺ふうち逃矢いとぞとる。きくい行
は道一いやらじと青壯が糸と一文字も。雨ふもあはれ
わく。け悪婦い這列人ふろず。前よ退拂いまし。後田を
の妻るるがふし。徘徊。今この山りまろる。壬生小猿と
いへる益城の妻とわろ。名も三路と叫び。折にふきてこの
路程に後引し。ける悪行なし。ろ。を小猿ハ別無阪長肥
の小唄。喉りして名にふと。益城の一個形。とまの半。ろ丸
源。拙凌と助の日。勢よ。文。三。条。捕。次。も。ろ。も。に。東。路。へ。敵。ん
と。ろ。ろ。ど。英。傑。の。玉。青。墓。の。ま。ろ。う。近。く。到。た。ま。い。ぬ。前。あ。り
里。正。先。に。ま。て。猿。若。成。所。考。未。明。ろ。ろ。の。平。家。の。士。通。中。目。角
け。知。に。ま。傳。何。余。義。の。光。系。と。半。ろ。捕。次。も。傳。へ。し。ひ。う。へ



御静候りけいありけるよ。村吏職ハ士よと突ハ食後あり
 女の隊ハ。別是よ侍人と案内せむ。那士けあして殺さし
 女ハ時ハ始末復竹老が隊と築き。卒放築と建得せしむ
 と尋ねよ。里正ヤヤ。何如の者うんせねと。喜世が茶よ切言
 一葉ありし。名よまき。監城熊阪の仕業あらんと。作の事ま
 突に埋めて吊らひし。田圃の六十六畝。然るに田圃一卒放
 築と建一坂所のものも。多勢多し。香花と手向をいせし。後そ
 動静うけとぬいさむ。那殺さし。女了そ。義朝公の北の方。左登
 市前よ侍よ。はとすより。半馬大いよ。勢と。依ハ母君。あよ。ま
 けま。中て。居ま。る。監城の。も。よ。う。ま。い。の。と。あ。り。と。ま。り。も。あ。り
 きの。場。あ。せ。と。う。洞。と。押。し。と。ま。と。も。動。静。と。す。う。人。食。後。の

士よ。あ。て。卒。放。築。引。抜。改。ま。る。春。光。院。了。又。義。剣。大。師。俗。名
 常盤。と。下。せ。し。教。び。も。ぬ。く。あ。り。常。盤。由。あ。し。以。語。陽
 と。及。び。出。行。来。志。と。ぞ。う。ゆ。後。と。退。り。け。あ。り。し。が。け。出。城。こ
 を。源。氏。の。余。勢。う。竹。も。せ。よ。常。盤。死。せ。し。と。あ。る。ゆ。ゆ。い。築。が
 食。儀。も。是。ま。で。あ。り。先。け。教。と。言。と。せ。ん。は。よ。も。け。墓。の
 所。偏。と。お。び。し。く。守。本。る。もの。あ。ら。ば。搦。捕。隊。進。せ。よ。と。尸。後
 立。取。と。バ。村。吏。職。も。え。送。り。て。後。よ。延。流。姓。さ。る。今。ハ。後。子
 半。君。丸。に。侍。其。ふ。よ。き。り。ら。母。君。ハ。熊。阪。と。り。入。監。城。の。も
 小。掛。と。築。む。し。と。也。あ。り。ま。い。と。あ。ら。ば。鞍。馬。山。と。出。る。約。一。ふ。に
 以。供。せ。ん。もの。と。志。あ。り。たり。孩。女。や。と。他。眼。も。お。も。ハ。守。師。終。び。終。ハ
 針。ア。後。ろ。の。橋。次。も。洞。ふ。と。ま。う。い。と。め。中。せ。バ。半。馬。丸。石。と。よ

今亭もくくくと東へ下るも氏の能摩と信がんとち二つハ母君へ
 源氏の業と。色中うさんとわりのしも皆仇復新経中を我々の
 武運拙なく如果し身の新末もかきと。悲歎の個は播磨孝
 勝さまへ着いたつらませ。命はるること小竹へも。今又なうぬ
 此致おなるとをよ一室居はけふ一字と遠山跡を吊ひたまへ。
 陳の藤一と樹と。およとあうて安立を。牛馬冷とをなくくも。
 歩連るがまうの青墓の涙まをるういへ。や深栖後く助の
 け宿の山中なう大後舎の泊と。幕あえてあつめる也。
 牛馬播はと進。到るあらしうも。行りあひまも。款とよ。吾も
 たまひぬ。儘まうけ青墓の涙。長老と。子と。大炊と。つもの
 ありはうが。這者義朝不保の者。よと。へ。取牛馬丸。暗に。これ

翁たまへ。長老。大炊。安。放。悦。の。余。頻。て。牛。馬。子。飯。
 近。め。ゆ。小。う。甚。志。より。で。權。一。返。向。あ。ぶ。し。と。字。へ。ぬ。ま。は。
 源。栖。後。く。助。ハ。路。次。と。ま。を。ご。云。務。由。へ。牛。馬。丸。の。り。大。炊。播。は。も。
 能く。憑。と。と。と。け。ふ。う。り。互。列。國。作。に。て。い。そ。と。ら。る。後。播。は。の。
 許。多。の。金。存。も。あ。ま。バ。街。の。寓。居。も。を。を。ひ。な。ら。り。と。供。人。の。い。
 縁。舎。よ。妙。し。牛。馬。備。共。長。者。大。炊。の。も。と。傳。金。ま。ま。と。
 陰。奥。へ。縁。ま。た。ま。ん。と。怒。よ。も。と。る。ら。由。へ。牛。馬。丸。も。か。も。ま。ま。に
 鳥。一。の。中。播。は。と。と。も。止。ま。り。う。い。け。

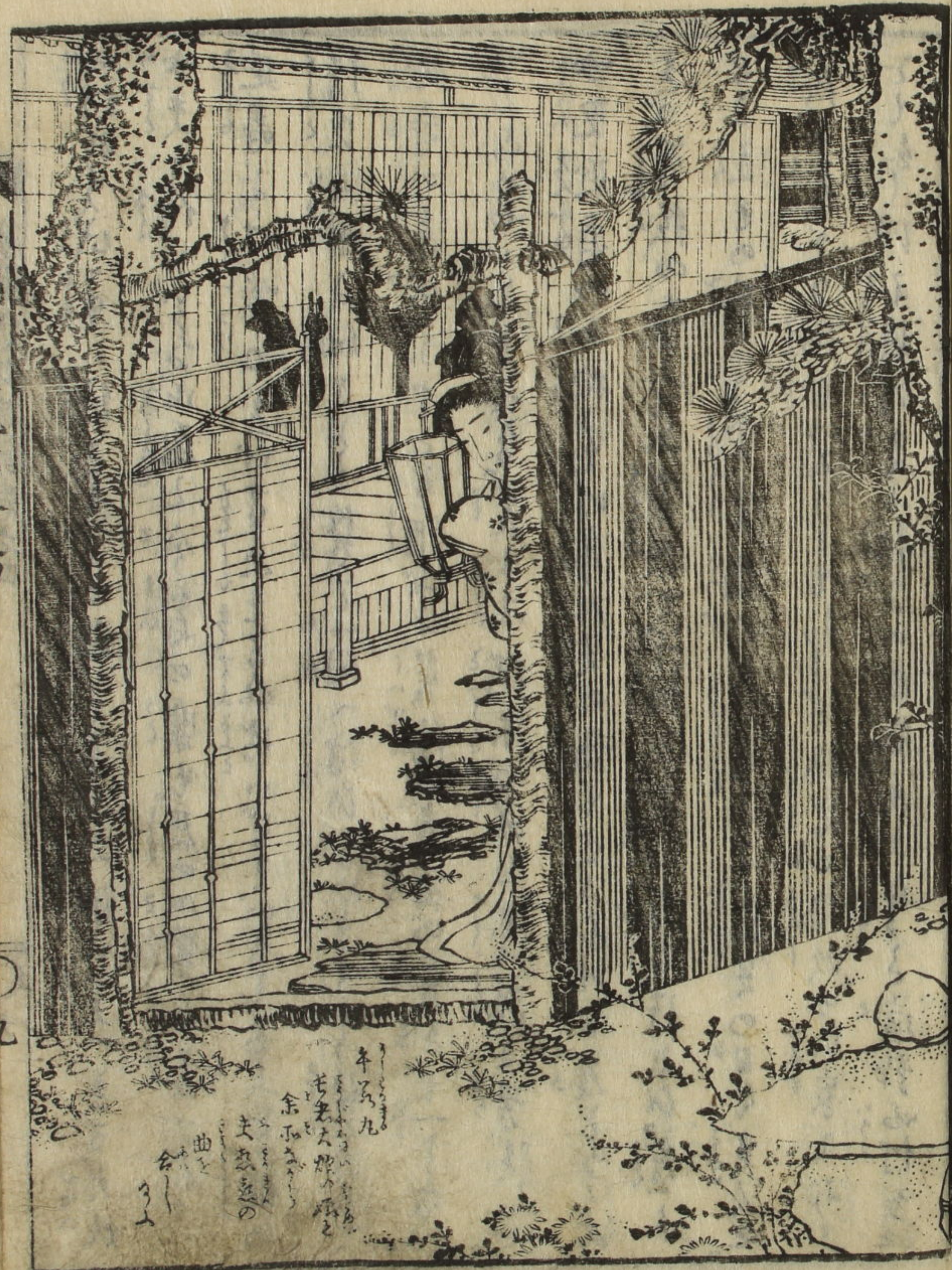
○長者女史延壽楠次女史橋本備兼牛馬丸語

係 橋本義を伏奴

粵に青墓の長老。大炊の女史延壽と。うへ。い。齡。も。い。と。う。月。の。影。

大炊が家より帰る。とるく。の答。長由へ不惣。日敷。の。とめ。と。を。
 りや。近き。小。弁。足。と。り。つ。る。ふ。ぞ。大。炊。女。夫。い。余。波。と。借。今。有。也。
 酒。宴。又。別。を。移。し。牛。馬。丸。も。川。加。入。裁。方。行。未。と。想。ひ。
 續。け。生。せ。一。折。う。長。者。が。奥。の。殿。と。是。し。く。も。う。ふ。す。し。る。管。
 弦。の。音。平。調。返。し。の。糸。竹。の。音。呂。律。の。音。と。う。づ。く。た。の。と。も。
 や。こ。し。く。か。ま。で。け。る。牛。馬。丸。い。か。ね。て。も。好。り。通。し。耳。例。立。
 流。石。の。長。老。大。炊。の。女。史。の。歌。ひ。か。ま。と。急。々。想。夫。急。げ。樂。と。奏。に。
 る。に。何。と。笛。と。吹。さ。る。ぞ。我。も。け。比。の。お。ひ。や。と。し。ま。い。と。ま。ん。
 牛。馬。も。こ。し。に。母。君。より。揚。い。ま。る。怪。折。の。笛。あ。ま。い。今。ハ。記。
 念。ぞ。又。お。ま。づ。る。樂。を。合。せ。て。吹。て。入。ん。と。振。舞。よ。と。出。る。笛。を。
 出。し。吹。さ。る。せ。げ。る。も。あ。ん。く。と。隆。々。と。名。笛。も。や。吹。さ。り。けん。

復。後。ハ。半。小。と。だ。く。し。て。大。生。の。方。は。頻。り。く。と。牛。馬。丸。も。笛。吹。
 止。竹。放。樂。と。ま。り。し。ぞ。系。推。量。に。遠。ひ。ぬ。く。笛。と。鳴。り。え。え。
 たり。よ。し。お。き。さ。り。と。尚。と。納。め。舞。而。小。入。ら。ん。と。さ。し。り。竹。の。間。
 小。り。へ。ま。さ。り。ん。難。の。後。う。登。泉。十。五。枚。弛。出。て。牛。馬。丸。の。
 左。右。の。杖。と。吹。傳。只。今。の。横。笛。の。音。と。感。じ。誰。人。も。又。在。
 よし。女。史。延。壽。の。竹。響。け。往。り。途。局。在。し。ま。世。と。恒。回。て。
 急。急。君。の。吹。せ。ま。い。し。と。字。形。づ。い。と。お。ひ。も。鳴。る。べ。し。妻。
 二。個。へ。ひ。て。う。り。延。壽。の。た。の。も。は。や。近。き。に。後。ま。た。し。は。
 今。も。有。ハ。女。史。の。歌。は。ま。う。せ。延。壽。の。房。室。ま。を。入。り。あ。り。ま。と。横。笛。
 の。一。曲。と。樂。を。合。せ。て。の。人。と。余。ま。ま。と。我。ひ。は。牛。馬。丸。も。吹。さ。り。
 志。さ。る。ま。も。と。も。娘。の。居。る。房。室。ま。い。たら。ん。に。至。人。へ。守。り。



平九
七老太郎
余
夫
曲
人



新編貞女言者之四

八日

女何なり。びるの一件とさよと。輝とさよと二個いす。いさよ。大炊
 女まも何といふ。此處と今宵の樂も君の心替もさよせん。あ
 近寿は「叮嚀ぬまば」さよまもさよ。さよ。いさよ。いさよ。二個の
 侍兒を解と袖よと。携方と一箇へ付ひま。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 近寿の房室ふ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 いとさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 女見近寿の介抱。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 ま。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 せよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 と。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。

として。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 包ま。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 都。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 ち。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 牛。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 子。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 寿の。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 一。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 小。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 這。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。
 侍。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。いさよ。

恥^ちづ^つる^るが^が、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 例^{れい}の^の違^{ちが}ひ^ひを^を、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 の^の違^{ちが}ひ^ひを^を、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 女^{にょ}史^し延^{えん}壽^{じゆ}の^の意^い智^ち君^{きん}梅^{ばい}木^{ぼく}の^の坊^{ぼう}と^と女^{にょ}史^し良^{りやう}貞^{てい}の^の摘^{てき}次^じも^も後^ご女^{にょ}史^し
 不^ふ便^{べん}と^とか^かい^いの^のあ^あや^や、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 今^{いま}仔細^{しさい}け^けた^たま^まい^いま^ま、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 路^ろに^に迷^まい^い不^ふ可^かの^の拳^{けん}幼^{ゆう}、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 牛^う馬^ば君^{きん}と^と誓^{ちか}ひ^ひし^し約^{やく}す^す、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 たり^{たり}し^しも^も彼^かに^に迷^まい^いた^たま^ま、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 一^{いっ}首^{しゆ}徳^{とく}深^{しん}、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 泣^なけ^ける^るも^も其^{その}の^の子^この^のて^て、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 から^{から}お^おの^の生^{せい}質^{しつ}成^{せい}長^{ちやう}、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 が^が一^{いつ}生^{せい}一^{いつ}度^どの^の死^しひ^ひを^を、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 小^{せう}も^も、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 いと^{いと}と^と、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 義^ぎ理^りある^ると^と、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 かり^{かり}、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 牛^う馬^ば君^{きん}に^に係^{けい}せ^せと^と、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 言^{こと}も^も、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 竹^{たけ}の^の節^{ふし}、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 園^{いづみ}と^と、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め

泣^なけ^ける^るも^も其^{その}の^の子^この^のて^て、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 から^{から}お^おの^の生^{せい}質^{しつ}成^{せい}長^{ちやう}、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 が^が一^{いつ}生^{せい}一^{いつ}度^どの^の死^しひ^ひを^を、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 小^{せう}も^も、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 いと^{いと}と^と、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 義^ぎ理^りある^ると^と、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 かり^{かり}、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 牛^う馬^ば君^{きん}に^に係^{けい}せ^せと^と、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 言^{こと}も^も、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 竹^{たけ}の^の節^{ふし}、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め
 園^{いづみ}と^と、^しら^ら有^りし^しと^とう^うハ^ハ令^{れい}小^{せう}か^かけ^け牛^う馬^ば君^{きん}延^{えん}壽^{じゆ}ど^どめ^め

ひとりの運は才と。摘次がくうらひ橋本の不送。こゝまで怒りし
 牛若君今又何の圖りぞ。毒のこゝろ。洋してと。すぬ女也成
 看むる親たといえ給ふまじとして思ある長者親子の流義理を
 もきし守を地はつへ。張の若君の心ぬも。うらまはし。妻の通理と
 弁まき。其の袂衣どのよもこの圖を承引めらば。二節。後。の
 外の中。無根えい互いの親と親。袂衣。の持。保。い。け。せ。で。連。流。
 縁と必。き。摘。次。が。持。ハ。未。未。の。縁。結。ぶ。の。神。よ。誓。と。う。け。ん。を
 互の縁と。めとあり。う。と。ば。袂。衣。も。う。け。い。さ。て。ま。り。う。ら。ま。は。し。延。壽。
 こも。せ。ま。と。合。点。と。せ。用。さ。い。た。と。ん。こ。う。こ。う。こ。う。一。回。一。は。ぬ。
 初て。延。壽。も。橋。本。も。か。よ。ま。め。縁。突。ハ。義。理。と。義。理。と。小。齋。
 か。も。ば。延。壽。さ。く。く。本。亦。連。出。喃。橋。本。さ。ら。親。の。命。も。廣。

ことめの縁の保。二個にひけし。前。面。よ。か。け。た。る。二。つ。の。縁。辭。義。を
 中。さ。い。西。牙。ハ。害。人。争。と。入。保。い。あ。ね。ぬ。も。意。ハ。義。理。も。忘。る
 と。や。保。へ。て。ぬ。と。あり。う。ら。ま。は。し。橋。本。も。命。救。さ。し。保。へ。て。と。い。け。た。と。
 縁。の。な。や。と。水。介。抱。厚。と。保。も。弁。ま。さ。ず。保。う。し。ひ。願。保。ひ。中。保。も
 後。の。み。去。来。く。保。と。ぬ。え。あ。ま。吾。先。ぬ。え。と。互。ひ。の。辭。退。ハ。河。上。
 意。の。中。ハ。實。負。ト。と。律。よ。誓。ひ。と。掛。帯。や。及。隣。お。あ。ぬ。縁。の。保。
 二。個。一。齊。え。と。ま。い。ま。た。る。保。も。と。つ。と。ぬ。引。合。入。保。ハ。袂。衣。と。延。
 壽。ハ。け。せ。で。連。流。ハ。保。未。未。の。契。り。ハ。摘。次。と。橋。本。を。合。入。け。ら。と。
 橋。本。ハ。心。と。計。ハ。保。投。棄。倒。と。お。け。流。洗。む。袂。衣。脊。ハ。保。下。
 也。し。ぬ。ハ。通。理。ぞ。や。延。壽。が。保。ハ。實。務。し。と。是。え。よ。し。と。思。は。れ。す。
 摘。次。ど。の。心。根。ま。で。毒。ハ。保。に。保。し。て。毒。の。毒。と。保。未。未。と。う。簡。め。れ。

け世で深まぬ未本の女まよりぬがし解り又る眼もいらしく。櫻
 本どの念時し延寿おもゆんさせ今宵一扱と百扱と牛馬
 君と寝えとせんまとせめてのかりひ出よ恵ひ切てゆいまじし。時乳の
 白小徒、侍客ももぬしたまは衣後衣改め女まの盃冷泉もうれこ
 存出し。娘出前の一世の時湯化粧とせまし。式法の通、三九献の
 用意せよと情の言に摘次は後ひ、後この志し。まゝ延寿殿の
 水了簡未ゆさし。女児後居知ては、水乳やて月をせよといへど
 女児の恵へさく。壺後入る立居ると。冷泉はさまし。小宿の藤つ
 介抱し。御よまとりと。化粧の間へと付ひ、後とまはる。櫻本へ
 おりひは思ひ十寸後、向入洞の玉くし、二見が浦の為繪松千代
 もと控し。延寿も今、乳きて餐の、未永くまと、給ひてし。

仇よ只一扱、控し、解るも、一扱しと想へど、まをが冷泉の心は、に
 後もぬ、控して、磨といと、思よりせぬせり。廊下付ひ、まより、十五扱
 櫻本の、あに、み、は、久、風呂揚の、水、敷くと、刺刀に、巻添し、延寿が、母
 狭衣の、心と、おし、延言の、おの、式、法、教へ、ま、ま、お、か、よ、ど、ね、お、同、法
 ぬき、や、う、か、添、水、一、扱、あ、ま、し、と、指、出、せ、い、接、て、竹、う、ら、竹、ま、で、水、を、ま、ひ
 雅有しと、押頂て、刺刀は、巻添し、文、讀、も、櫻、本、お、さ、る、よ、う、石、菫
 元、守、と、俱、に、文、と、致、さ、ぬ、き、紙、の、う、と、え、合、す、め、葉、讀、も、早、に
 孫、頭、の、袖、押、志、づ、め、十五、扱、は、速、い、扱、衣、ま、ま、の、終、り、と、式、法、の
 出、書、付、得、と、遊、道、し、竹、う、ら、竹、ま、で、直、き、や、う、小、申、し、と、延、寿、の、い、ひ、一、日
 小、と、た、の、ま、に、二、個、い、か、も、ほ、ろ、借、小、ま、さ、く、長、廊、下、の、お、り、向、も、あ、る、を
 慙、也、櫻、本、の、扱、衣、ま、ま、解、り、し、刺、刀、違、ふ、は、今、宵、南、五、行、陀、佛、の、夢

新編源氏物語卷之四



橘次郎さうら木
美のつらゆ
自害す

新編源氏物語



素白城詩卷之四

十三

いろとし呪のそりと搔切てあゝと短限倒を伏すは物者ふく
 へ行ややこ人と死まをば狭衣播次もまはのり。是をいぬに伏
 ちる女児播次の周ま抱託し不佞の者のあてさまやとその後
 是は泣細牛丸も死出さぬ。竹板自害さしつるやと父の不審
 もとまやらす。狭衣の播本の乳はましとあぢら出りしは
 播本能も自害さし流るる若くは始め播次どのたましと播本
 の自殺の勃神有枝有系守てたましと毒の毒の青源氏に
 由縁の者るるが長田辰司よおしおきて。柴の例女とぬ。野田の
 内海にありしと。左馬頭義朝軍に利ねく。尾張の國で落
 とせたまし。播本个兩度とや譜代の長田がなまら。古湯といりせ
 奉る。魚塙と寢る。祖も共風呂の前後は伏せ。はしも名

と市大将敵なとぬ。まの惜や。三代惣恩のはこと忘は人歌
 人通知らすとまら。長田はむ相そ。種とやせしんも流らす。
 喉とて越へ度。月日もまばかのづつ。重くぬる父のどしこつ
 らる。男子ならぬ。あまよかけ。殺す。是悟も同遠て女子をば
 まし。もと。後控て。あまよ。再び。後連延寿
 の母と。血と命。おの子の孝り。也。背の。おの。志。し。し。
 か。い。ず。女。児。の。意。侍。ひ。播。次。ど。の。お。強。く。棄。子。に。流。た。り。し。紙。と
 い。ひ。月。日。も。不。遠。る。女。児。半。あ。君。の。い。な。め。ふ。い。父。出。の。敵。長。田。の。種
 ち。し。ぬ。穿。つ。は。是。眼。も。ま。し。知。て。の。と。い。狭。衣。を。隠。し。て。い。通。立。は。播
 次。ど。の。に。仔。細。と。と。う。縁。守。よ。負。さ。せ。と。も。親。と。親。と。の。巧。ち。牛。馬
 君。よ。別。と。て。い。不。存。卒。心。と。ぬ。助。い。せ。い。て。死。ね。し。と。ま。し。せ。し

けりけりては、奴と子と合せて、其の母と侍らば言むかこ
 さすけ容象、や若しうららん。おのいさく、往らば母と
 して、其まよし。流るる事と、嗚いて、其の身を、嗜
 死ぬるふも、け風呂の、回義朝と、敷と、報ひ、女児、まふり、
 手と出し、て、殺さ、ひ、おと、まへ、け、刺刀、母、おと、く、も、思ひ
 きて、て、と、あ、と、と、身と、投伏、して、泣か、る、今、深、の、極、木、眼、
 有、算、捕、次、と、ま、狭、衣、さ、ま、親、子、と、ら、り、ひ、う、ら、ま、
 女、児、中、次、の、け、自、害、牛、馬、君、も、ま、で、ま、し、只、け、と、り、近、
 中、流、上、流、て、め、い、ま、と、我、と、互、接、て、引、長、も、終、て、果、ま、さ、女、
 死、骸、押、切、して、捕、次、の、敷、と、死、る、際、ま、で、孝、行、そ、し、親、で、お
 い、と、い、可、也、や、と、泪、よ、と、て、し、も、あ、ら、ま、と、牛、馬、君、も、今、
 文、に、

おと、笑、り、と、悔、の、泪、近、寿、も、ろ、と、も、止、り、ひ、ひ、い、つ、ま、で、
 け、り、も、そ、せ、ぬ、敷、と、遠、上、の、福、本、と、葬、送、の、式、執、行、ひ、
 吊、ひ、追、福、供、養、予、世、ふ、出、る、ま、あ、ら、ま、と、し、け、ら、い、
 命、よ、ら、皆、泣、く、も、ま、ら、亡、骸、と、な、と、め、ぬ、

○熊阪干青墓長者家族入商議之話

専、又、熊、坂、右、舟、入、通、長、範、の、今、長、濃、の、圃、青、世、が、原、の、田、に、
 佃、ぬ、し、許、多、の、小、唄、娘、と、四、下、に、お、ま、が、中、も、名、な、る、もの、い、赤
 阪、青、墓、の、奴、の、御、家、萬、舎、ま、ど、は、持、へ、置、ま、さ、ま、母、が、原、の、一、本
 の、松、と、つ、つ、小、平、田、小、城、と、伏、屋、往、還、の、旅、客、の、勅、符、と、遠
 見、さ、せ、と、と、け、街、及、の、黄、金、多、き、旅、人、と、馳、走、ひ、滅、威、と、持、ひ、
 這、回、都、三、条、の、金、賈、者、捕、次、と、い、へ、る、もの、兼、金、砂、金、あ、ま、と、馬、に

附らちのくへ下るはし物見ののり進みゆくをこれと
 奪ひえんと小唄唄と茶商儀做すところにて倅ひ青墓の奴
 小唄止宿のしやえぬきと常陸の國の住人源柵凌之助重
 頼の同勢一日は寓家せりと沙汰のまじりある時内容あも
 換入がしとまを奴入ぬよ後助を新いよあま金買高橋
 次のも長老大炊の家よりやう奴僕ハ寓家も残るあるよし
 たし小唄え付よ寓舎山中を這越阪の小唄唄の一個
 壬生の小唄が家よまよ長老範大ひは攷躍今いふ易し長老
 のも人お付よ換入橋治の金行ハ勿偏長老が家の金銀
 とし奪ひえるべしと商儀一丈一尺をよ若と必き
 とま青墓の宿山中をといつ寓舎の主人村を樹とま

態板の小唄唄壬生小唄が家よまよけよ止る金買高橋の
 奴僕よハ飯賣女をもて酒を飲勧めやと長老の家ハ僅こま
 しろ四五十歩と隔小唄の妻三路平日よ大炊のしとへ出入
 るせび今言換入のりせんとは者と入せよと相寄と結
 としろにお申之給ひさうまうていつら長老のものと若に
 今言行ハ進福の當りありて信徒を招き下せも混雜の
 とまよまよ妻もハ倅体ハ疑付今言ハ長老の家ハ術よく
 を麻痺たるはと考へ相寄の笛と吹り引申え其の家の
 橋治が奴僕も家皆擲投列たがへす一日は換入ハ若同遠
 ねます首領へおしせたましとめりまよ小唄其言よ志こがひ
 妻ハいと長老の家ハ入せまよ今言ハ牙ハ隠はけよ若態板の



主君の御様
二人様人と
だまされて
長靴が
かうと
走り

らんと一腰帯て表の方へ走出る。その折より帯面より小灯燈
 たる。猿吉神の二個連たしくまゝうりし。小猿と曳停。半兵物
 同いりたし。け。街は山中屋村を周ると。寓舎は竹多よりふらふと
 尋ねに小猿の二個の教と大教よりまじり。那者共由不念や。此
 方の小猿の村を清うとついに。このまじり。這者王生邑の甚六太兵
 衛以て。後て久し。後列位より。折路とくけて。竹岡へと尋ねる。
 二個の先業法。竹岡どころ。其方より。壬生一邑の大業。勤
 り。その前の年。信望公の御殿と。西八條。猿の控業。其方
 の一花を。此より。平家室室の難力の。後失。其日の。役人不猿
 囚獄。竹岡の。おまぬ。小猿の村を。清。平。分。ても。尋。出。速。来
 ると。後。安。町。等。五。個。三。個。法。回。へ。り。と。け。を。方。の。左。所。と。披。に

ま。中。け。街。は。寓。舎。し。て。あり。と。教。出。る。もの。ち。る。ま。じ。り。の。意。を。こ。こ。こ
 ま。り。し。し。が。ま。で。ま。り。の。村。の。仕。合。ま。ま。一。日。に。連。徒。人。と。い。は。れ。
 小猿も。南。然。ま。り。お。ま。り。の。ま。り。と。知。ぬ。難。力。の。金。儀。假。は。性。人。も
 詮。ま。り。と。い。は。れ。と。不。守。那。二。個。た。い。お。ま。り。ひ。で。も。後。に
 六。波。羅。の。相。の。押。あ。で。せ。よ。ま。り。と。い。は。れ。と。事。と。新。と。近。引
 う。ぬ。小。猿。の。難。義。思。業。を。極。め。小。猿。の。村。を。踏。ま。り。あ。ら。び。詮
 と。ま。り。に。後。借。は。連。徒。分。説。し。て。ま。り。と。い。は。れ。と。二。個。と
 被。収。て。ま。り。と。我。等。も。仕。合。と。小。猿。と。伴。ま。い。は。れ。と。い。は。れ。と。こ。こ
 う。と。ま。り。の。う。ら。う。と。ま。り。と。い。は。れ。と。事。と。新。と。近。引
 う。と。接。付。よ。二。個。と。大。家。家。右。左。後。と。着。色。一。血。力。ぬ。ま。い
 五。金。の。ぬ。ま。い。入。し。首。領。の。跡。を。お。人。と。一。個。言。し。て。我。等。ぬ。

113
4443
4

...



徳政説話卷之四 平

全一冊

徳政説話卷之四

...



